

大阪・高槻市は、

ことし10月に「関西将棋会館」が完成するのに合わせ、
会館の隣にファンや地域住民向けに公園を整備するなど、

「将棋のまち」をアピールする取り組みを
強化することになっています。

日本（にほん）将棋連盟の西日本の拠点である関西将棋会館は、
老朽化に伴って大阪・福島区から高槻市に移転し、
ことし10月に完成する予定です。

高槻市は、これまでに江戸時代の将棋の駒が数多く見つかり、
「将棋のまち」をアピールしてきましたが、
移転によって多くのファンが訪れることが見込まれるため、
さらに取り組みを強化することになりました。

具体的には、

▼会館の隣に

将棋の駒に使われる「ツゲ」の木が植えられた公園を整備するほか、

▼最寄り駅となるJR高槻駅の地下通路の壁を、

将棋盤をイメージしたデザインに一新します。

高槻市将棋のまち推進課は

「民間とも連携しながらプロモーション活動に力を入れて、

将棋を通して地域の活性化につなげていきたい」と話していました。